



考へれば便法妙案も

あるものぢや

地方債の趨勢は増加するのみで三十億を突破したので起債は容易に許可を與へられず所謂「起債難」の聲が地方に高くなつて地方自治體では、事業上の非常時局を出現したのである。其處で案出したのが役場、廳舎、學校、病院等を建築するに當つては先づ個人と約束し其の者の資力で建物を建築させ一定の期間に自治體が建物の所有權を取得する條件で其投資元本と割高の利息とを計算し、之を賃借料として支拂ふ方法である。此便法は既に二十有餘年前にも實

行した處があつて巧妙な脱法行爲である。

併し其相手が善良なる人物である場合は單に脱法行爲に止まるか一旦中途その建物の所有權が悪辣な人物に移轉すると不當な賃料の値上げとか、其の他種々の難題を提出することとなつて自治體は非常の難局に立つた事例が少なかつたのである。若しまぎれの妙案便法ではあるか往々妙案便法でなくて地方自治體紊亂の素因を爲すことである慣まなければならぬ、監督官廳の官僚達も實情に即した措置を講ずることが緊要であると思ふ、若し斯の如き方法が妙案便法なりと廣く認めらるゝと路政上でも利用されては油々敷いこととなるのを憂ふるものである。(路政小僧)

注意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

道路の改良誌上何

がオワシスか

オワシスとは砂漠に湧く泉と云ふのである、がそれは救済慰安の意義に抽象される。金森氏の「國道八號線」に對し吾人は之にオワシスの期待をかけた、特質として無味乾燥を免かれぬ道路の改良誌に極めて稀に現はれた文藝品なるが故にである。だが不幸にして吾人の期待はまんまと外れた、陳腐なる構成、拙劣なる表現、幼稚なる思想の展覽會で夫れは何等の迫力も新鮮も鋭さも無い、夫れよりか芝居の筋書を讀む方が餘程面白い。シヨペンハエルが「滑稽

とは直感と概念との不調和である」と安價なるセンチさは中學生の作文によく見らるる所である。「國道八號線」は道路の改良誌上のオワシスたるか夫れとも、シヨペンハウエルの格言を適用すへきものであるか敬て作者の高教を仰ぐものである(愚童)

敬を忘却した軍人も

あるか

我國明治の軍人中の大先輩であつた、西郷南洲翁は天を敬し人を愛すとの一句によく筆を染めたと「道路の改良」の七月號巻頭言で讀んだ。成る程今の日本では缺けて居ることが意外にも少なくないが「敬」と云ふものが大に缺けて居ると洸民子から教へられて大に賛意を表して居る僕だが驚いたとも驚きやした。それは「自動車日刊新聞」社實陸軍中將堀内信水閣下が筆にせられて居る「信水論叢」の中に、「一木某と云ひ、美濃部某と云ひ機關説の元祖は皆

西洋留學者でまだ日本歴史も良く知らず少しばかりアルハベットが讀める位の者を秀才として國費を以て留學せしめたのが抑々の誤りであり、本人としても充分日本國史を研究せずに洋學を先入主と成らしめた不幸を招いたのである」と記しておる、此問題は公知の問題で今日でこそ其學説が我國體に背戾するもので時代の反映とは云へ斯る學説は我國民として信從すべきものでない而して其學説を論述した學者中に一木喜徳郎氏と美濃部達吉氏とがあることは堀内中將閣下は既に已に存知せられて居るへき筋である。去るに今日一木氏は樞密院議長正二位勳一等法學博士男爵である。されば其の學説を排撃するのには堂々として論議批判すべきものである。然るに感情に走りて前にかゝげたるが如き侮蔑的文句を列らねて之を公表することが軍人としての高教部に在り特に精神家を以て自任し不絶國民の指導に努力しつゝある堀内中將閣下として「敬」の心を失へるものではなから

うか。戦ふにも戦ふべき名分と正しき方法を執るのが日本の武士として尊はるべきものである、苟くも我國として今尙相當の榮職に在り又は尊敬を失はざる一木博士に對して之を匹夫野人視し無學無識の徒一介の書生と言ふが如きは敬を失ひたる言行と言はれても逃るべき申開きはあるまい、自ら慎まんとこそ其人物の尊信すべき處がある。蓋し言語は人の信を取る所亦自重せざるを得んやと。借問す陸軍中將堀内信水閣下以て如何とす。(高山生)

内務省未曾有の革正か

頃日傳聞する所に依ると後藤内相は内務行政の一大刷新を企て中央地方を巡して克く統制し得るの方策を研究せしむる所があつたか此程具體的立案となつて決定したと果して然るのであらば各局課との連絡調和を失はぬ様に實行前から注意計畫する所がなければならぬ。凡そ此種の方策は實行の初期に在つては關係者が其方策樹立の事情

や意義や運用などを理解するが故に効果的であるが時移り人替り四圍の事情が變ずると権限争や意思の不通などが發生し困難な問題を惹起し易いものである。従つて事の初めに於て慎重に注意深く研究して實行に移ることが大切な仕方であると信ずる世に傳へられる方法は一文書課の擴大によりその實現を計る。依つて同課に社會、警保兩局より事務官各一名を増員し、これに伴ふ屬その他の増員を行ふ。

一、文書課の所管事務擴大(一)全國各府縣の産業、經濟、財政、治績、沿革、歴史等に關する精細なる調査研究を行ひ、内務行政事務刷新の資料とす(二)新設の經濟部に付ては特にその事務と成績を調査し經濟部長の相談相手となりその行政事務を奮勵すること。
一、調査事項の範圍。文書課の事務は單に内務省のみの事項に捉はるゝことなく、重要と認めらるゝ一般行政問題に關しては常に研究を怠らず、また各局に所屬せ

ざる事項にして内務行政全般より見て重大なりと思料さるゝものにつき調査研究を遂ぐること。

一、聯絡關係。文書課の聯絡は省内各局及び省外、その他各省との間に行ふことである(白洋生)

警察署長をアツト

驚かした

新官僚主義と稱へらるゝ此内閣の下で大に其の手腕を振はれ、いち早く行脚知事とか農民知事とかのニツクネームを保持せられて居る新潟縣知事宮脇梅吉氏が去る六月下旬の警察署長會議で發せられた數箇條の訓示は實に從來の型を破つたもので列席の署長の膽をぬき唯アツトばかりの嘆聲を發せしめたとのことである。其内十ヶ條を洩れ聞いた曰く権限の濫用を慎み爲し能ふ總てを爲さざること曰く警察根性を慎み警察精神を發揮すること曰く健全な常識涵養、

人格の洗練同情心に富むこと曰く綱紀を肅正し儀表たるの矜持を失はざること曰く公正公平で、至誠神の如くなること曰く時に氣分を轉換し又は反省し猛省するの餘裕を有すること、曰く「部下を愛し教養し遺憾なくその天性を伸ばさしめること曰く然諾を重んじ頼しき床しきを持つこと曰く何人も爲し得べく又何人も爲さざるべからずして然も何人もこれを爲さざることあり、自己の最善を盡すことこれなり必ずこれを爲すことである。

此等の格言めいた事柄は獨り新潟縣の警察官計りでなく全國の警察官、否、檢事、憲兵は勿論其他の官吏としても以て座右の銘とするに足るべきものである。言行は君子の樞機の格言なり吾れ人ともに努めんかな。(舟岡生)

女性の細腕にて村の

自力更生

農村が衰へたとか山村が貧しくなつたとか、漁村民が飢饉線上に立つたとか、近年しきりに耳にする所で農山漁村の匡救事業は内務省や農林省の役人方で骨折られておられますことは略ぼ承知しております。道路の改良、河川の修理、林道の開設と云ふ

様な事業が農山漁村をうるおはしておるとは言ふものの矢張自力更生が必要であつて農山漁村のほんとうの更生は官成でなく自力でなければならぬものと思ひますと同時に私達女性の力で借金村を一轉して貯金村となした實例を聞きまして快心をおぼへました、それは北海道の久遠村と云ふ一漁村で其村は四字二十一部落から成立ち戸數は五百五十餘人口は三千五百餘人との事であります元來が漁村でありますから近來打ちつゞく不漁で村民は借金に借金を累ね非常に悩まされた其の主なる原因は村民悉く昔からの習はして仕入親方から借金しては漁具を買入れ、イザ漁期となつても捕つた魚類は借金のかたに二束三文で債權者に持

つて行かれ、漁民は泥田に足を踏みこんだやうに借りては取られ取られては借りーそこには算盤も打算もなく一戸平均三百圓といふ借金村であつた。

この驚くべき借金の數字を知つた同村栗田村長夫人かよ子(三五)はまづ主婦の頭から改造せねばならぬと同村赤十字社々員と計り『借金は出来るだけ少く』の標語を印刷、戸毎に配布し昨年三月赤十字社支部總會で『五ヶ年計畫一戸當り三百圓貯金』を勵行することを申合せ、ビールの空瓶、紙屑等から生み出すべく赤十字會員を先頭にこれを集めては金に換へ現在ではこれに参加したお神さん連六十六名、組合貯金はすでに三千圓の多きにのぼり、借金村變じて貯金村となり一路農村更生に向ひつゝあるとのことで一女性の働きがかくまで大きな收獲を得ると思ふとそらるに勇氣立ちます道路を護る業の如きも一つ女性の働きで功績を擧げて見たいと思ひます、先日新聞に「餘技といふこと」と題し英語のホービーとい

ふ言葉があるが「情熱と喜悅を以て追求する研究或は仕事を稱してホービー」と云ふ、我國での餘技とか趣味とか道樂とかいふのは其意味が非常に異なつて居ると述べられておりますが私達も非常時の日本女性としてホービーを生活化して國費が不足を告げおる道路改良の事業に盡したいと斷つて居ります。(婦美衛)

拷問變じて涙の調と

爲るか

先達も友人が來て物的證據がないのに被疑者の陳述を強制して夫れを斷罪の根據とするは人權蹂躪の甚しきものだ、公明正大なる判斷を以て臨むべき者が犯罪製造を工作すると云ふことが昭代の今日あるべき筈がないのに其事實あるのには憤慨せざるを得ない、帝都や帝都附近の大疑獄事件には往々斯の如き疑が少なくないと話したことであるが過般内務省で開かれた道府縣刑事

課長會議で第一に犯罪豫防に關し民衆の協力を求めること之については最近種々文化施設の整備特に交通機關の發達により犯罪は著るしく増加し九年においては一年間の犯罪總數百六十萬件といふ驚異的な數字を示し大正六年から見ると恰度倍に當つてある此際刑事警察の擴充を期すると共に一般民衆との協力により根本的犯罪の豫防防止を圖らねばならぬといふ見地から民衆に犯罪防止の知識を吹込み町區會の設置とか各戸の密接なる連絡をもくろみ五軒一組位の非常ベルを設備しボタン一つで最寄の交番に報ずるとか民衆同志の協力によつて賊を防ぐとかその他犯罪の行はれた際の現状保存を完全に行ふ等の事は是非民衆に徹底させ而して犯罪の豫防をはかる。第二に犯罪被疑者の取扱ひに關する件については從來被疑者を取調べる際粗暴の言葉を用ひ毆つたり蹴つたり拷問にかけたりしたが警察の威信のためこの弊風を斷然改め嚇かす代りに物的證據を充分に集めその方面から被疑

者をして自白するの已なきに到らしめるといふ風に取調べを科學化し又反面同情的被疑者には涙を以て臨み罪を強ひた社會とか環境とかに嚴重なる批判の目を向けるといふ風に人間的取調べの方法をとり且現在狹隘すぎる留置場を改め少くとも被留置者に苦痛を感じさせぬ程度に内部構造を改善すると共に巡查の反感を徒らにそよる様な被留置者の取扱方法を廢す要するに被疑者は未だ犯罪が確定せざるものであると云ふ事實を廣く警察官に徹底せしめることとなつたと傳へられる實に結構な決定で檢察方面の一劃期的刷新であると思ふ。(T・H生)

赤心の一票果して淨化せらるゝか

選挙肅正の聲は高く廣く叫ばれて居る、至んだ選挙で當選して居る議員までが選挙は肅正しなければならぬと唱へ、免れて恥を知らざるプロカーが政界の淨化を叫ぶ今日である。時の勢とはかくまでに至るも

のであるか、だが言を奇矯にして徒らに大衆の喝采を博し、大言壯語もて青年達の拍手を獲んことを求むるが如きことでは効果的でない。赤心の一票もどうやら黒腹の一票に化するにあらざるか、然るに前田多門氏の説く所、敢て奇に走らず平凡な事實に即して説き來り、説き去る所、さすがに雄辯意識の同氏であると思はる。

今回氏の述べられた一節をかゞぐると斯うである。曰く「候補者側には、痛切な死活問題といつてよい程、常に直接に利害關係が現存してゐるのである。だから選挙は候補者のための選挙であつて、投票者のための選挙では少しもないやうな觀を呈するその虚に乗じて色々の誘惑が選挙人の方に入り込み易く自然選挙を腐敗させるのである云々と實に説きも説いたものである。明治以來功利主義教育を受けた國民の自覺を喚起するは容易でないことを痛感する。

(大正生)